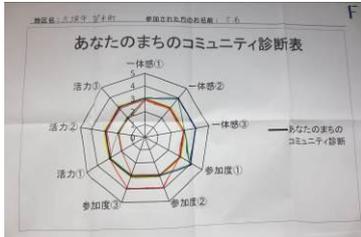
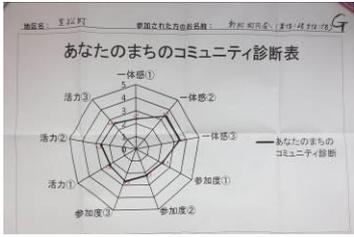
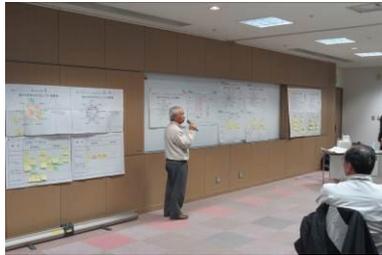


平成26年度 次世代地域リーダー塾 第3回 概要

日 時	平成26年12月6日(土) 13:30~16:30
場 所	ふれあい福寿会館 301中会議室
内 容	<p>1 挨拶(13:30~13:35) 岐阜県環境生活政策課地域コミュニティ室長 河田 哲也</p> <p>2 講義・演習(13:35~16:30)</p> <p>(1) コミュニティ診断プログラムの実施報告 第2回で課題として持ち帰った、コミュニティ診断プログラム(※)の結果を各グループで互いに報告し合った。 ※同じコミュニティ(町内会又は家族など)の方5~6名から、コミュニティを診断するアンケートを取り、同じコミュニティの人同士でアンケート結果が違った場合は、話し合って合意形成をしていくというもの。ただし、多数決や平均をとるといった手法を取らず、話し合いで合意を形成。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(2) コミュニティ診断アンケートの結果分析 3つの分野(一体感、参加度、活力)のそれぞれの項目で、評価が高かった事例から、その理由を推理し、学ぶべき点を付箋に書き出して分析した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(3) コミュニティ改善のための処方箋を作成 各自のコミュニティ診断表について、改善のための処方箋を、短期療法と長期療法に分けて考えた。 まず各自で考え、その後グループ内で共有し、改善課題が比較的明確な事例を1つ選んで、改善策に対しグループ内でさらに検討を加え、処方箋をブラッシュアップして完成させた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

(4) グループごとの検討結果を、全員の前で発表  
 グループごとに、コミュニティ改善のための処方箋を発表して共有した。



■スタッフも「コミュニティ改善のための処方箋」

グループ(E)

病名	地域へ引きこもり患者様候群	
	短期療法	長期療法
行儀のすべきこと	...	...
住民自身のできること	...	...
地域の活動主体に期待したいこと(NPO、企業等)	...	...
その他可能な	...	...

各グループで考えた処方箋は、別添、ワークショップの記録（第3回）に掲載。

<講座のポイント>

住民アンケートに基づくコミュニティの評価をグラフ化・分析して処方箋を作成するというプロセスを通じて、コミュニティの課題とその解決策を考えた。住民が日頃感じている課題を、グラフや表による分類によって目に見える形にし、グループメンバー同士で意見を出し合う中で、コミュニティを改善するヒントを見出していくコミュニティ診断の手法を学んだ。